115 誌上発表

慶長古活字版『重編医経小学』の鍼灸歌賦について

橋本　史代
日本鍼灸研究会

『医経小学』は元明間の医家・劉純の撰（洪武21年〔1388〕自序）になる，韻文形式の総合的医学入門書である．内容は朱震亨の医学を基礎とし，『素問』『霊枢』『難経』『傷寒論』『脈経』，劉完素，張元素，李杲等の説を撰集している．中国刊本に明・洪武21年（1388）著者序刊本，正統3年（1438）序刊本，成化9年（1473）熊宗立本などがある．一方，和刻本に慶長年間頃の古活字版『重編医経小学』（編者未詳，有欠，宮内庁書陵部蔵．以下「重編」）が伝存する．これを正統3年本（以下「原本」）と比較すると，原本は本草，脈訣，経絡，病機，治法，運気を各1巻とした全6巻からなるが，重編は，食治，診察，鍼灸等の編目を新設した全9巻という構成（巻1：運気，巻2上・下：本草・食治，巻3：経絡，巻4上・下：脈訣上・下，巻5：診察，巻6：病機，巻7：治法，巻8上・下：鍼灸上・下，巻9：丹渓格致余論・医家十要・惑問）となっていて，大幅な改編・補填が見られる．ただ原本以外の医書から採録，附加された多くの鍼灸歌賦は，慶長年間当時の鍼灸の理論傾向を探求する上で資料的価値が高いと考えられるため，その調査を試みた．

原本では鍼灸関連歌賦は，巻3「経絡」11種（十二経脈と奇経八脈の流注及びその経穴）と巻5「治法」7種（鍼法と禁忌）に見られる．一方，重編では巻3に30種（経絡・経穴19種，禁忌11種），巻7に2種（灸法，刺法），巻8上に54種（鍼法理論），巻8下に26種（病門）が採録されている．調査の結果，原本の18種の歌賦が重編と一致するのは「十二経井滎兪経合穴」「太乙人神」「鍼法」のみで，「周身経穴賦」は重編には見えず，残り14種は他書を用い校勘・校訂を施し再編したものであった．経脈・経穴は徐鳳撰『鍼灸大全』（以下『大全』），禁忌は『大全』と高武撰『鍼灸聚英』（以下『聚英』），李梴撰『医学入門』（以下『入門』）等が参考にされている．「周身経穴賦」の代わりに『大全』の「周身折量法」を採用し，四肢経穴部を十二経脈流注順に並べ変えるといった工夫も見られる．

原本に見られない歌賦の典拠は以下の通り．『聚英』70種〔巻3：4種（周身血気歌・十二原穴歌等），巻8上：41種（刺法啓玄・納気歌・龍虎交戦歌・焼山歌・雑病十一穴歌・玉龍歌・百證歌等），巻8下：24種（ほとんど巻4下の「雑病歌」から採録）〕，『大全』14種〔巻3：2種（子午流注逐日按時定穴，周身折量法），巻8上：12種（八脈配八卦歌，千金十一穴歌，金鍼賦等）〕，『入門』6種〔巻3：5種（四季人神，十二支人神等），巻8下：1種（雑病穴法）〕，朱権撰『乾坤生意』3種（巻8上：長桑君天星秘訣歌，馬丹陽天星十二穴治雑病歌，四総穴歌），劉瑾撰『神応経』2種（巻8下：手足腰腋，瘡毒），瓊瑤真人撰『鍼灸神書』1種〔巻8上：瓊瑤十法歌（瓊瑤真人三百六十号総括二十）〕，朱鼎臣編『徐氏鍼灸全書』1種（巻8上：八法五虎建元日時歌）．典拠不明の歌賦は「奇経八脈主病」「七衝門」「灸」「刺」「漏経穴法」「釈運気定月下血気法」の6種である．

重編には，多数の歌賦を収録する『聚英』や『大全』だけでなく，その他の元明鍼灸書も渉猟し，そこに記載された歌賦を整理・校勘した様子がうかがえ，日本近世初期鍼灸研究のための鍼灸資料として高い可能性を秘めていると考えられる．ちなみにもうひとつ興味深い点を上げる．巻3に「漏経穴法」という経外奇穴を編んだ歌訣があるが，経外奇穴を意味する「漏経穴」という呼称と，条文中に見える「独会」という奇穴は非常に珍しい．室町時代に日本へもたらされた『奇效良方』（董宿原編，方賢・楊文翰補編）に端を発する「奇穴」という呼称は，慶長年間にはまだ浸透していなかったのか，それとも何か典拠が存在するのか，残りの典拠不明な歌賦も含めて，今後の研究課題としていきたい．